

頻出	図書 の請求 記号	書名	編著者	発行	出版年	件名	対象 学年	人文・ 外国語	教育	法・国際	経・商・ 社会	理・工	農・水産	生活科学	医・福祉	備考
◎	002 ウ	知的生産の技術	梅棹忠夫	岩波新書	1969	学術 情報処理	1	●			●	●				学校では、知識は教えるけど、知識の獲得の仕方はあまり教えない。メモのとり方、カードの使い方、原稿の書き方など基本的技術の訓練不足が研究能力の低下に繋がっていると考える著者が、創造的な知的生産を行うための実践的技術の提案を試みる一冊。
◎	002 ト	思考の整理学	外山滋比古	ちくま文庫	1983	思考	2	●						●		アイデアを出す際に参考になる思考法をいくつか紹介。思考法の入門書。
◎	007 シ	スマホ中毒症	志村史夫	講談社	2013	情報化社会－日本 スマートフォン インターネット依存症	1	●	●		●	●		●	●	携帯やスマートフォンを使っているうちに「情報依存症」や、ソーシャル・ネットワークでの「つながり依存症」を起こし、思考能力を失った人々。物理学者が、中高年にとって本当に必要なIT機器と、“智慧のある少欲知足”の生活をおくる方法を紹介している。
	104 ウ	「里」という思想	内山節	新潮選書	2005		3	●		●	●	●				グローバリズムがますます広がる中、「近代」的なものに取り囲まれて暮らす我々は、幸福をどこに求めればよいのか分からなくなっている。本来必要なのは実態のある幸福感。ローカルであることを見直し、グローバル化された社会へ警鐘を鳴らす一冊。
○	104 ワ	「聴く」ことのか—臨床哲学試論	鷲田清一	筑摩書房	1999	哲学	3	●						●	●	他人とコミュニケーションを行う際に当たり前に行っている「聴く」という行為について、「他人を受け入れる」行為として考えている本。「ホスピタリティ」や「聴く」という行為の本質を探る。
○	104 ワ	わかりやすいはわかりにくい？ 臨床哲学講座	鷲田清一	ちくま新書	2010	哲学	2	●	●		●				●	常識とは違う角度で問いを発することで、現代人が向き合うべき様々なパラドックスについて考える。複雑な現代社会の中で、自らの言葉で考え、生き抜く力の養成に繋がる一冊。
◎	104 ワ	「待つ」ということ	鷲田清一	角川学芸出版	2006	哲学	1	●	●					●		待たなくてもよい社会、待つことができない社会になった今、人は自分の力ではどうにもならないもの、じっとしているしかないものに重量感を与え、その重さに耐えられなくなっている。「待つ」という行為から「生きること」について考える。
◎	113 カ	生きがいについて	神谷美恵子	みすず書房	2004	人生観	3		●				●		●	私たちは日々、何に生きがいを感じ、何をきっかけに生きがいを発見していくのか、改めて「毎日の生活を生きるかいあるように感じさせているもの」について想いを馳せる機会を与える一冊。
	141 モ	人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか	森博嗣	新潮新書	2013	思考	2	●			●				●	よく考えたつもりでも、私たちは思い込み・常識など具体的なことに囚われていることがある。問題に直面したとき、必要なことは「抽象的思考」である。「疑問を閃きに変えるには」「決めつけない賢さ」などの考えるヒントを公開し、一生使える思考の秘訣が詰まった一冊。
	143 カ	おとなが育つ条件—発達心理学から考える	柏木恵子	岩波新書	2013	発達心理学	1	●	●		●			●		激しい社会変動に追いつけていない日本の「おとな」の特徴は、社会が変わっても旧態依然たる「あるべき」姿に縛られたところにある。高齢化時代を自分らしく生き抜くために、いかにそこから脱するか、何が必要かを考える一冊。
◎	159 カ	悩む力	姜尚中	集英社新書	2008	人生訓	3	●	●		●				●	情報ネットワークや市場経済圏の拡大などに伴う変化の中で、多くの人々がストレスを感じている。格差が広がり自殺者も増える現代社会においてどのように生きればよいのだろうか。こうした苦しみを百年前に直視した夏目漱石とマックス・ウェーバーをヒントに、最後まで「悩み」を手放すことなく真の強さをつかみとる生き方を提唱する。生まじめで不器用な心に宿る無限の可能性を探る一冊。
◎	304 ウ	生きる意味	上田紀行	岩波新書	2005		2	●	●							自分の将来を考えるにあたり、自分は何がしたいのか、何のために生きようとしているのか悩んでいる人に読んでほしい。

頻出	図書の請求記号	書名	編著者	発行	出版年	件名	対象学年	人文・外国語	教育	法・国際	経・商・社会	理・工	農・水産	生活科学	医・福祉	備考
	304ケ	希望のつくり方	玄田有史	岩波新書	2010	社会心理学 希望	3		●	●					●	閉塞感が漂い、将来展望を抱くことが困難な時代だといわれる今日。希望を自分の手で見つけるためには、何を考えどんな行動に踏み出したらよいのか、そのヒントを示している一冊。
◎	304テ	社会人の生き方	暉峻淑子	岩波新書	2012		3		●		●				●	社会人とは本来、自分たちの社会を共に作り上げる人々のことである。若者の就職難、格差の広がりや無縁社会の中で社会人として生きていくのが困難なとき、社会人になるには何が必要かなど考えていく。
◎	304テ	豊かさとは何か	暉峻淑子	岩波新書	1989	日本一社会	1								●	モノとカネがあふれる金持ちの国・日本。しかし一方では、環境破壊・過労死・受験戦争・老後の不安など深刻な現象もあり、国民にはゆとりも豊かであるという実感もない。西ドイツでの在住体験と対比させながら、日本人の生活のあり方をみつめ、本当の豊かな社会を探る。
◎	304ヨ	「自分」の壁	養老孟司	新潮新書	2014		3	●			●				●	「本当の自分」より「本物の自信」を育てた方がいい。脳、死、情報化社会など多様なテーマから考える、目からウロコの指摘が詰まった一冊。
	311ス	政治的思考	杉田敦	岩波新書	2013	政治学	3		●	●	●					政治への不信感が高まっている今こそ、政治をどのように考え、行動することが問われている。決定・代表・討議・権力・自由・社会・限界・距離という八つのテーマに即して思いを巡らせながら、政治的に考えることを明らかにする政治入門書。
	319セ	人間の安全保障	アマルティア・セン	集英社新書	2006	人間の安全保障	3	●		●	●					アジア初のノーベル経済学賞を受賞している著者が、紛争や災害などをはじめ、安全を脅かす地球規模の様々な事象についてどのように向き合っていけばいいのか、「人間の安全保障」について分かりやすく解説している本。
	331ジ	「分かち合い」の経済学	神野直彦	岩波新書	2010	経済社会学	1			●	●					不況が続く中、国内では貧困や格差拡大による課題が山積している。産業構造や社会保障のあり方について検証し、この「危機の時代」を克服する新しい経済システムの構築を提案している。
	332モ	里山資本主義 ―日本経済は「安心の原理」で動く	藻谷 浩介 NHK広島取材班	角川書店	2013	地域開発―日本 日本一経済	2	●			●		●	●	●	里山資本主義とは、里山の休眠資源に地域で暮らす人々が新たな価値を与え、安心で将来性のある地域社会をつくるという考え方のこと。課題があふれる社会を救うモデルは、里山にあるかもしれない。これからの社会や経済を考えるうえで、示唆に富む一冊。
◎	350ニ	統計学が最強の学問である	西内啓	ダイヤモンド社	2013	統計学	1		●						●	統計学は、一定数のデータがあれば最適な回答が出る。それによって自然科学分野で活用されてきたが、ITの発達と結びつくことにより、近年あらゆる学問、ビジネスへの影響力を強めている。こうした点から統計学を「最強の学問」とし、魅力と可能性を伝えていく一冊。
	361ア	異文化理解	青木保	岩波新書	2001	文化 国際理解	3	●	●	●						IT化やグローバル化が進む中、互いの文化を理解し、認め合うことがますます重要になってくることを、事例を紹介しながら説いている。小論文入試の頻出図書であるが、これからの自分の生活を考えるきっかけにもなるだろう。同著者の「多文化世界」(岩波新書)も同様に参考になる本。
	361カ	友だち幻想	菅野 仁	筑摩書房	2008	人間関係	2	●	●	●	●					「みんな仲良くしなければいけない」「私を丸ごと受け入れてくれる人がきつ」と思っていないませんか？でも、それが幻想だとしたら？ 人間関係を根本から見直すとともに、社会学にも触れることができる本。
◎	361サ	コミュニケーション力	齋藤孝	岩波新書	2004	パーソナルコミュニケーション	1	●			●					会話(対話)や議論、その間の沈黙など、円滑なコミュニケーションを行うための著者の考えや実践的な技などが紹介されている。

頻出	図書 の請求 記号	書名	編著者	発行	出版年	件名	対象 学年	人文・ 外国語	教育	法・ 国際	経・ 商・ 社会	理・ 工	農・ 水産	生活 科学	医・ 福祉	備考
	361 シ	生き方の不平等—お互いさまの社会に向けて	白波瀬佐和子	岩波新書	2010	階層—日本	2	●	●	●				●	●	不平等を子ども・若者・勤労者・高齢者というライフステージごとに、豊富なデータを基に検証している。そして不平等をめぐる現状をどうやって変えるか、「お互いさまの社会」を創出するには一人ひとりはどうしたらいいか。今を生きる人たちへのメッセージを発している一冊。
◎	361 ヒ	わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か	平田オリザ	講談社現代新書	2012	社会心理学 パーソナルコミュニケーション	3	●	●	●	●			●	●	近頃の子どもの「コミュニケーション能力がない」というのは本当なのか、「子どもの気持ちがわからない」というのは何が問題なのだろうか。今必要なことを考える。
○	367 ウ	下流志向—学ばない子どもたち 働かない若者たち	内田樹	講談社文庫	2009	青少年問題—日本	2	●	●	●						若年層が「学び」や「労働」から逃避している理由は何だろうか。本作品の中では、経済原理による社会の均質化と述べられている。格差社会と呼ばれるこの国で逃げ続ける若者たち。そんな若者の思想のメカニズムを分かりやすく解明している本。
◎	367 カ	子どもが育つ条件—家族心理学から考える	柏木恵子	岩波新書	2008	家族心理学—日本 育児	2	●	●							自己肯定の低下やコミュニケーション不足の高まりなど、子どもの「育ち」において様々な異変が起きている。また子育てのストレスから、虐待や育児放棄に走る親たち。これらの問題を家族関係の変化や親と子の心理の変化に注目して、親と子ども双方が育ちあえる社会を考える一冊。
	367 ト	友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル	土井隆義	ちくま新書	2008	青少年—日本 コミュニケーション 携帯電話	1	●	●	●						ケータイ・メールでお互いのつながりを確認し、空気を読みながら対人関係を築いている若い世代。いじめやひきこもりなどの問題を取り上げ、その背景にある問題に迫った一冊。
	368 ア	子どもの貧困—日本の不公平を考える	阿部彩	岩波新書	2008	社会病理 貧困 貧困児童 児童福祉	3	●	●	●	●				●	日本の子どもの貧困の現状について、多様な視点からのデータに基づいて説明し、今後の方策について述べた本。子どもたちの抱える困難な状況について、わかりやすく説得力のある形で説明されている。
	368 ア	弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂	阿部彩	講談社現代新書	2011	貧困—日本 社会的排除—日本 社会的包摂—日本	3	●		●	●				●	社会は、他者とつながり、お互いの存在価値やそこにいることを認められた場所。人間にとって衣食住やその他の生活水準の保障のためだけに大切なのではなく、社会に包摂されること自体が非常に重要であることから、貧困の議論をする上で欠かせない視点は何かを提起する一冊。
◎	369 イ	目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤 亜紗	光文社新書	2015	視覚障害者	1	●	●						●	福岡伸一氏推薦。普段、最も頼っている視覚が閉ざされた場合、視覚以外の機能をどのように使い、生活を充実させられるだろうか？美学と現代アートを専門とする著者が、インタビューを通して「見る」ことそのものを問い直す。多様な他者とわかりあい、力をあわせる時代のために読んでおきたい一冊。
	370 サ	教育力	齋藤孝	岩波新書	2007	教育 教員	1	●	●							教師に求められている素質とは何かといったことに対して、授業の方法や課題の与え方など、様々な視点から問いかけている本。教育学系統を目指す生徒には目を通してほしい一冊。
	371 ハ	他人を見下す若者たち	速水敏彦	講談社現代新書	2006	青年—日本	2	●			●					他者を否定したり軽視することによって、無意識に自分の価値や能力を高めようとしている人が若者を中心に増えている。教育心理学が導き出すデータから浮き彫りになる新しい日本人像を紹介しつつ、その要因を解き明かしている一冊。
	376 シ	本当は怖い小学一年生	汐見稔幸	ポプラ新書	2013	小学生	2	●	●							「小一プロブレム」と呼ばれる教室で起こる問題は、なぜ勉強するのかわからない、授業がつまらない、親の過剰な期待に振り回されるなど「学びの面白さを感じられない」子どもたちからのメッセージ。子どもの可能性を引き出すために、今必要なものは何か。教育、子育てへの提言。
○	404 イ	疑似科学入門	池内了	岩波新書	2008	疑似科学	2	●				●	●	●	●	占い、超能力、怪しい健康食品など、社会にまかり通る疑似科学。そのワナにはまらないためにどうしたらよいか。また地球温暖化問題など、科学の不得手とする問題に正しく対処するにはどうしたらよいか。さまざまな疑似科学の手口とそれがはびこる社会的背景を論じ、一人ひとりが自ら考えることの大切さを説く。

頻出	図書の請求記号	書名	編著者	発行	出版年	件名	対象学年	人文・外国語	教育	法・国際	経・商・社会	理・工	農・水産	生活科学	医・福祉	備考
◎	404ナ	科学者が人間であること	中村桂子	岩波新書	2013	科学者 科学者倫理 科学と社会	3	●	●		●				●	大震災を経ても変わることのできない日本、大森荘蔵、宮沢賢治、南方熊楠らに学び、「自然」「生命」から近代科学文明を問い直す一冊。
	404ナ	「わかる」とは何か	長尾真	岩波新書	2001	科学技術	3	●	●			●				「わかる」ためには何が必要でどのようなステップを踏むのか。ITやクローンなど、科学技術の問題を題材に、「わかる」という人間的理解とは何かを考える本。
◎	404モ	科学的とはどういう意味か	森博嗣	幻冬舎	2011	科学	1		●	●		●	●	●	●	科学―誰もが知る言葉だが、それが何かを明確に答えられる人は少ない。科学を好き嫌いではなく、「身を守る力」としての科学的な知識や考え方について書かれた本。
◎	460フ	生物と無生物のあいだ	福岡伸一	講談社現代新書	2007	生命科学	1					●	●		●	高校生にも読みやすい科学ミステリー。「生命とは何か」といった生命科学最大の問いに対して、天才科学者たちの思考と科学的アプローチの方法を踏まえて生命観について探っている本。分子生物学では一体この問いにどのように答えるのか、知的好奇心を満たしてくれる一冊。
◎	481モ	ゾウの時間ネズミの時間	本川達雄	中公新書	1992	動物生理学	2				●	●			●	動物のサイズが違うと機敏さ、寿命、時間の流れる速さが違ってくる。しかし、一生に心臓が打つ総数や体重あたりの総エネルギー使用量は同じである。サイズからの発想によって動物のデザインを発見し、その動物によって立つ論理を人間に理解可能なものにする新しい生物学入門書。
	493ア	ぼくらの中の発達障害	青木省三	筑摩書房	2012	発達障害	2	●	●						●	自閉症、アスペルガー症候群、発達障害とはどんなものなのか。その原因や特徴や対処法などをよく知ることができれば、人とのやり取りが苦手だったり、こだわりが強かったりなど、誰のうちにもそれらがあるとわかるだろう。
○	498キ	医療の選択	桐野高明	岩波新書	2014	医療－日本	1			●				●	●	より良い医療を維持発展させていくために求められる条件とは。現在直面する問題について、医療費、国民皆保険制度、超高齢社会などさまざまな角度から考える。国民ひとり一人が未来の指針を得るための一冊。
◎	801ミ	日本語が亡びるとき―英語の世紀の中で	水村美苗	筑摩書房	2008	日本語 日本文学－歴史－明治	2	●	●	●		●				今後、英語が世界中でより一層機能していくであろう「英語の世紀」の中で、日本語が「亡びる」とはどういうことなのか。私たちが用いる言語について改めて考える機会を与える一冊と言える。
	914.6オ	なつかしい時間	長田弘	岩波新書	2016		2	●							●	詩人である著者が、17年間NHKの「視点・論点」で語ったことを集成した一冊。言葉・風景・本・場・人……。日常的にそこにあるのに、私たちが見なくなってしまうものが綴られている。また宮沢賢治・島崎藤村・勝海舟など先人たちの魅力的な文章もおさめられている。
	914.6ソ	人間にとって成熟とは何か	曽野綾子	幻冬舎新書	2013		3	●	●		●				●	人はみな等しく年を取るが、人生がだんだん面白くなる人と、不平不満が募る人がいる。両者の違いは何か。「憎む相手からも人は学べる」「諦めることも一つの成熟」など、今の世の中を自分らしく生きることを提言。周りに振り回され、自分を見失いそうな人に贈る一冊。







